

若鳩

二学期を振り返って



教頭 杉山 太夏子

今日で二学期が終わり、令和五年も残すところ後十日ほどとなりました。皆さんにとって令和五年はどのような年だったでしょうか。

本校にとって、令和五年は創立百五十周年という記念すべき年となりました。

九月には創立百五十周年記念若鳩祭が三日間行われ、三千人を超える来客がありました。平成十一年の校舎改築の際、中庭に埋設されたタイムカプセルの掘り起こしが行われたり、創立百五十周年にちなんで各ホームや文化系部活動の企画が数多く見られました。

また、十一月十一日(土)には、創立百五十周年記念式典が厳かにかつ盛大に行われ、ご来賓や卒業生など、多くの方々にご参加いただきました。新たなタイムカプセルも設置され、在校生にとって

は、数年後に思いをはせる創立記念日となりました。

百五十年前の日本は、近代化に向かう激動の時代でした。明治四(一八七一)年には廃藩置県が行われ、全国に三府三百二県が置かれました。その翌年には「学制」が發布され、すべての国民が小学校に就学することが定められて、全国に小学校が整備される近代的な教育が始まりました。同じ年には、日本初の鉄道路線が新橋―横浜間で開通しています。本校はその翌年の明治六年に創立されています。そういった激動の時代に創立されたことを考えると、改めて本校の歴史と伝統の重みを感じずにはいられません。

来年度からは新しい制服を着た生徒が登校することになり、本校はここから、また新たな歴史を創り、つないでい

WAKABATO
発行所
高知県立高知小津高等学校
総務部・PTA事務局
〒780-0916
高知市城北町1-14
TEL 088-822-5270
FAX 088-823-6387

第103号若鳩

- ・二学期を振り返って
- ・活躍の記録
- ・PTAの活動報告
- ・ミニ体育祭
- ・創立150周年記念事業
- ・若鳩祭
- ・SSH活動状況報告
- ・読み聞かせ実習
- ・カウンセラー便り
- ・進路指導部より
- ・後期生徒会執行部役員決定

など

<http://www.kochinet.ed.jp/ozu-h/>

くこととなります。ところで、皆さんは「凡事徹底」という言葉を聞いたことがありませんか。「なんでもないような当たり前のことを徹底的に行うこと」を意味する言葉です。人によって当たり前だと感じることは違うと思います。学校においては「遅刻をしない」「挨拶をする」「授業に集中する」「掃除をする」「学校行事に積極的に参加する」「一部活動をやり遂げる」といったようなことがあげられるかと思えます。

私はこの言葉を十数年前に参加した進路講演会で初めて聞きました。そして、それ以降、大学進学者が多くいる学校で勤務しながら、生徒たちが「凡事徹底」できているかを常に気に掛けるようになっていました。それはなぜかというところ、「凡事徹底」ができている生徒が不思議と大学に合格していたからです。「学力を支えるのは人間力であり、当たり前のことを当たり前にできる人でなければ、大学受験などという難しいことは達成できない」と進路講演会の講師の先生はおっしゃっていました。確かにそのとおりだと非常に納得したことを今で

も覚えていません。それに加えて、「土曜補習に必ず出席する」「国公立大二次試験の直前まで学校の補習に参加する」「放課後、学校に残り勉強する(携帯電話を触ることなく、集中して学習できる環境で、自分を律しながら勉強に向き合う)」といったように、学校をベースに勉強する生徒がよく合格していました。もちろん、これらのことを実行した生徒が必ず大学に合格するわけではありませんが、このことは、私の知っている他県の公立高校の先生方何人もが不思議と同じように感じておられました。

また、進路講演会では次のような言葉も紹介していただきました。『ある国にトウモロコシ作りの名人がいた。どうして良い作物をつくれるのか。秘密を探っていくと、彼が自分の農場で採れた良質の種を惜しみなく隣近所に与えていたことが分かった。なぜ？彼は明快に語った。「トウモロコシの花粉は風によって、あちこちの畑に飛ばされる。ゆえに近隣の人が品質の悪いものを作れば、受粉によって自分のトウモロコシの品質も下が

る。良いものを作るには、皆が良いものを作れるように手伝わなければならない。』

ペレス・エスキベル」
こんな風に、友達同士、教員同士が教え合い、学び合い、クラスを超え、学年を超え、学校を超えて、生徒たちを取り巻く教育環境を良くしていきたいと感じたことでした。

今年八月に、同じ講師の先生のお話を再び聞く機会がありました。先生は今でも同じように「凡事徹底」を大切にされた熱意ある指導を続けておられました。教育には普遍的なことがいろいろとあります。これからの変化の大きい時代を、こうした不易と流行の考えを大切にして過ごしていかなければならないと思えます。

三年生は、後三週間ほどで大学入学共通テストを受験し、本格的な受験シーズンに突入します。是非、「凡事徹底」を実行するとともに、学校をベースとした生活を継続し、最後まで自分を信じて頑張りたいと思います。健康を祈っています。

的場 遼斗 (1-1 H)
第3位

徳平 隆佑 (2-7 H)
清岡 和樹 (1-1 H)
筒井 秀貴 (1-4 H)

大友銀次郎 (1-6 H)

◆令和5年度全国高等学校総合体育大会卓球競技大会第92回全国高等学校卓球選手権大会

○男子シングルス

出場

濱田 尚人 (3-1 H)

◆令和5年度高知県高等学校秋季卓球選手権大会

○男子団体

第2位

濱田 尚人 (3-1 H)

門脇 永十 (2-5 H)

市川 慶多 (2-6 H)

嶋崎 一颯 (2-6 H)

浜田 悠吾 (2-7 H)

的場 遼斗 (1-1 H)

筒井 秀貴 (1-4 H)

○男子シングルス

第3位

濱田 尚人 (3-1 H)

女子ダブルス

上崎 万寛 (2-1 H)

岩本 瑠椰 (1-7 H)

◆【男子ソフトテニス部】

第73回四国高等学校ソフトテニス選手権大会

トテニス選手権大会

○男子団体選手権

出場

高畑 湊 (3-7 H)

織田 智聖 (3-3 H)

西川 大翔 (3-5 H)

多田 勝星 (3-4 H)

二俣 朔也 (3-4 H)
大野 裕太 (3-5 H)
大崎 陸矢 (3-6 H)
松岡 徳人 (2-6 H)

◆【男子弓道部】

◆令和5年度高知県高等学校

校弓道秋季選手権大会

○個人競技2・3年生の部

男子第6位

濱川 大智 (2-2 H)

◆【女子剣道部】

◆令和5年度高知県高等学校

校剣道夏季剣道形大会

○女子

優勝

久保 鈴 (2-1 H)

冨田めぐみ (2-3 H)

◆【ライフル部】

◆第61回全国高等学校ライ

フル射撃競技選手権大会

○チームライフル男子個人の部

出場

安岡 大翔 (3-5 H)

◆令和5年度高知県高等学校

射撃競技夏季選手権大会

○チームピストル女子60発

競技

第1位

山本 穂香 (1-3 H)

◆令和5年度高知県高等学

校射撃競技秋季選手権大

会兼新人大会

○チームピストル女子60発

競技

第1位

山本 穂香 (1-3 H)

PTAの活動報告

令和五年度第七十二回全国高P連宮城大会に参加しました

総務部 植村 敦至

全国高等学校PTA連合会宮城大会が八月二十四日(木)、二十五日(金)の二日間、仙台市で開催され、本校から久保会長と二名で参加してきました。大会前に県高P連の佐竹会長らと空路、バスを利用し、途中、松島湾の震災復興クルーズに参加しました。ここでは船内で語り部から震災当時の状況や思いなどを聞き、被害に遭われた方々の苦悩や悲哀を知り、被害の大きさを実感させられるとともに、胸が熱くなりました。その後、瑞巖寺を訪れました。瑞巖寺は伊達家の菩提寺として領内一の格式を誇っただけあり、その荘厳さと歴史の深さに圧倒されました。

大会初日は六つの会場に分かれて分科会が開催されました。私が参加した第六分科会では東京大学大学院教授の小玉重夫氏から「十八歳選挙権と主権者教育」というテーマで講演をいただきました。その後、吉野作造記念館館長の氏家仁氏がコーディネーターとなって、高校生を中心とした主権者教育の取り組みや、PTA活動を通して主権者教育の現状から、主権者を育てるために乗り越えるべき課題についてパネルディスカッションが行われ、活発に意見交換がなされました。現代の山積する課題を乗り越えるために、世代や年齢を超えてPTA活動から主権者を育てるという新しい視点を学びました。

二日目は仙台市体育館(カメイアリーナ仙台)で全体会が開催されました。開催にあたり「白四」によるプロジェクトセッションマップングが披露されました。斬新で洗練されたアトラクションに参加者は釘付けになっていました。開会式後の表彰式では、PTA活動振興功労者表彰で高知県高P連元会長川北恭弘氏と同元事務局長中村哲夫氏が表彰されました。その他、高知県からは全国高P連会長表彰「個人」で二名、「団体」で二校表彰されました。表彰式後の記念講演では、仙台育英学園高等学校硬式野球部監督の須江航氏から「伝える言葉と失敗から学ぶ」という演題で講演をいただきました。講師自身の競技体験や子どもたちとの接し方、チーム作りで大切にしていることなど、時には面白いエピソードも交えて熱く語ってくれました。実体験を踏まえて言葉の大切さを教えてくれた講師のお話は、多くの人に聞いてもらいたいものでした。

今回の大会に参加し、県外の学校での取組、活動など聞くことができました。これらを参考に本校のPTA活動をさらに活発なものにしていきます。



グローバルトークOZU
〜異文化・国際交流会〜
(PTA国際委員会)

十一月十八日(土)、本校にて「グローバルトークOZU〜異文化・国際交流会〜」が開催され、生徒十四名、保護者等六名、教員数名が参加しました。高知市内在住外国人(龍馬学園で日本語を勉強中の留学生)を六名お招きして、自己紹介をしていただいたのちに、グループディスカッションを行いました。当日は高知フアイティングドッグスのサンフォ・ラシイナさんにも特別に参加していただきました。「異文化について知れて良かった・楽しかった」等の感想が寄せられ、参加者は充実した時間を過ごすことができました。



オープンキャンパスツアー
・高文祭ツアー
(PTA研修委員会)

八月六日(日)に行われた高知大学・高知工科大学のオープンキャンパス研修に、高知大学には十五名、高知工科大学には十一名の生徒・保護者等が参加しました。高知大学と高知工科大学の二コースに分かれ、それぞれの会場で大学が実施するオープンキャンパスに参加しました。保護者等や生徒たちは、高知大学では地域協働学部と教育学部に分かれ、また、高知工科大学では、システム工学群・理工学群・情報学群・データ&イノベーション学群などに分かれて学部説明や体験学習に取り組みました。学部の雰囲気を感じることができたと同時に、各自の進路実現に繋げることができたツアーとなりました。

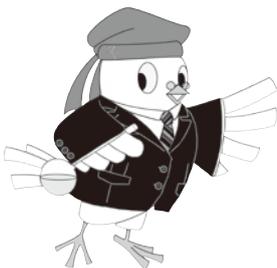
十一月十九日(日)には高知県高等学校総合文化祭見学ツアーを行いました。保護者等四名、教員一名で高知市文化プラザかるぼーとに集合し、県内高校文化部の展示やステージ発表などを鑑賞しました。当日は七階で展示している美術・工芸・書道・写真などの部門を見学した後、二階の大ホールで行われている音楽部門のステージを鑑賞しました。十二時に解散しましたが、午後行われている茶道や吹奏楽などの部門も個々で見学することができ、芸術の秋をたっぷり堪能しました。高校生の熱意ある文化・芸術のパフォーマンスに感動しました。

学校探索ツアー

十二月九日(土)、十四時からPTA一年学年委員会主催で学校探索ツアーが開催され、保護者等二十五名が参加しました。二班に分かれて、本校教員の案内のもと校内を探索しました。東館、保存棟、芸術棟を回り、生徒達が日頃授業や部活動で利用している教室を見学したり、校史資料室では小津高校の歴史に触れたりしていました。生徒が学習をした部活動をしたりしている様子も見ることができてよかったですとお声もいただきました。学校探索ツアー終了後は自由に部活動を見学しました。

また、部活動見学と並行して一年生保護者等対象の茶話会も行われ、十七名の保護者等と教員数名が参加しました。コロナ禍における学校や家庭での生徒の様子を共有し、交流を深めました。クラス垣根を越えて、保護者等同士が先生方も交えて和気藹々とした雰囲気なかで話をし、クラスや家庭での子どもたちの様子や、親としての思いを分かち合うなど、お互いのことを良く知る機会となりました。

来年度以降も是非続けて開催したいものです。



三 体育祭

9月26日(火)にミニ体育祭が行われました。ミニ体育祭ではパネル掲示、応援合戦などは行われませんが、秋晴れの下、勝利を目指して繰りひろげられる熱き戦いに、大きな声援が送られ、大体育祭に負けない盛り上がりとなりました。



開会式



100m走



障害物競走



100m走



ムカデ競争



100m走



行先はわからん



タイヤ奪い



騎馬戦



いなばのハト渡り



玉入れ



二人三脚



ホーム対抗リレー



綱引き



色別対抗リレー



閉会式

創立150周年記念事業

本校は、明治6年に東京日本橋箱崎の旧土佐藩主山内家邸内に海南私塾として創立され、今年で創立150年を迎えることとなりました。150周年を記念し、9月22日(金)～23日(土)には「創立150周年記念若鳩祭(一般公開)」を、11月11日(土)には「創立150周年記念式典」を実施しました。この記念事業の様子について紹介します。

(創立150周年記念若鳩祭の様子については8・9ページをご覧ください。)

○十一月十一日(土)に、県内で最も長い歴史を持つ小津高校の創立150周年記念行事が行われました。十三時から行われ、本校体育館で行われました。高知県知事、濱田省司様、副知事、濱田省司様代理の高知県総務部副部長坂田省吾様を始めとした多くの方々にお越しいただき、祝辞をいただきました。また、式典後には創立150周年記念事業の生徒実行委員による150周年事業の紹介が行われました。



○記念行事に先立ってPR展示を行いました。八月三十一日(木)～九月十三日(水)の間、オーテピア二階の共同学習スペースにて、若鳩祭ポスターやPRアニメーション、旧校舎の模型など様々な物を展示し、来館者に見ていただきました。



◇当日配付されたトートバッグ
生徒実行委員会が提案し、デザインしました。色は黒とアイボリーの2色展開です。記念行事の参加者全員に配付されました。



◇タイムカプセル掘り起こし・設置
平成十一年の校舎総合落成及び創立126周年記念式典の際に埋設したタイムカプセルを、今年の九月の文化祭に合わせて二十四年ぶりに掘り起こしました。また、150周年を記念し、新しいタイムカプセルを設置しました。次は二十年后に開封する予定です。



11月10日
創立150周年記念式典前日





◇新制服公開
 (フルバージョン)
 九月の若鳩祭では公開しなかつた夏服も併せて公開しました。

○十四時四十五分から記念講演を行いました。講演に先立って、ウクライナ出身の留学生タラセンコ・ヴラジスラヴさんと生徒実行委員会とで「ウクライナからみえる平和の大切さ」と題し、発表を行いました。これはタラセンコさんと生徒実行委員会とで事前に行つた対話の内容をまとめたもので、「戦争」という我々にとつての非日常に触れ、平和について考えたことを発表しました。



◇記念碑の設置
 記念碑名「YU(優秀・優雅・優しい)」
 本校卒業生の笹岡伸行さん(現岡豊高校教諭)と実行委員会がデザインしました。



んが「ウクライナから考える日本の未来」という演題で講演をしてくださいました。ジャーナリストとしてウクライナなどの戦地にも足を運び、得られた情報や考えについて、時折実際に撮影した動画や写真も紹介しつつ語ってくださいました。モスクワ支局長をされていた経験からロシア語を習得されており、講演の途中にタラセンコさんとロシア語でコミュニケーションを取りました。戦争や平和について改めて考える良い機会となりました。



○十八時から行われた記念祝賀会には来賓や小津会また保護者等、関係者の方々が多く来校くださいました。卒業生であり、元大関「朝潮」の長岡末弘さんの写真や化粧まわしの展示も行われました。



創立150周年記念事業に関しましては、準備段階から関係する皆様のご理解・ご協力をいただき心より感謝いたします。
 なお、150周年記念番組を十二月三十一日(日)、十三時からテレビ高知(チャンネル6)にて放映予定です。是非ご覧ください。



創立150周年記念 - ぞうだ 小津へいどう - 若鳩祭

9月21日(木)~23日(土)という異例の3日間の日程で若鳩祭が行われました。150周年記念ということで、各団体の発表に加え、タイムカプセルの掘り起こしや新制服公開などの記念事業も行われました。また、各部活動・ホームの企画においても「150」にちなんだものが多く取り入れられていました。4年ぶりに一般公開を行ったこともあり、およそ3300名の方が来校され、大変盛り上がりました。ポスターやパンフレットは公募作品から選ばれました。



テープカット



若鳩祭パンフレット



若鳩祭ポスター2023



新制服披露



卒業アルバム展示



課題研究成果発表



美術部によるオープニングムービー

各ホーム・個人の企画



キッキングスナイパー(1-2H)



的当て(1-5H)



ダンス



ギター弾き語り



縁日(2-3H)



カジノ(2-4H)



お化け屋敷(2-7H)



イカ焼き(3-1H)



レモネードスタンド(3-3H)

3-3Hからの報告とお礼

文化祭ではたくさんの方々のご協力、ありがとうございました。

- ・小児がん治療支援のためのレモネード販売 売上金より94,110円をレモネードスタンド普及協会に寄付
- ・国際支援活動「届けよう、服の子クラブプロジェクト」集まった子ども服約5,000枚が国際中学高校を通じてユニクロへ



焼きそば・アイスクリーム(3-6H)

文化部活動の企画



科学部



吹奏楽部



英語部



書道部



生物部



音楽部



写真部



ハンドメイド部
(お菓子販売)



地学部(カジノ)



フォークソング部



将棋囲碁部



漫画研究部



令和五年度SSH活動の概要

本校は令和四年度から、二年間の経過措置の指定を受け、全校生徒を対象とした、『高知県の課題解決に貢献できる理数系人材の育成』に継続して取り組んでいます。経過措置二年目の令和五年度は、コロナ禍以前に実施されていた対面での活動が再開されました。今回は、七月以降に実施したSSH活動の様子を中心にご紹介したいと思えます。また、本校ホームページにSSH活動の様子などを載せていますので、こちらもご覧になってください。

SSH課題研究活動

◆ 普通科 総合的な探究の時間

○ 地域の課題講演Ⅱ(一年)

六月二十三日(金)、普通科一年生を対象として、高知大学地域協働学部 松本明先生に、「SDGs(Sustainable Development Goals)持続可能な開発目標とは」その経緯とわたしたちができること

と題して講演いただきました。



研修室での講演の様子

講演は年表作成ワークシートに書き込みながら、SDGsの十七の目標分野が定められた経緯を理解することから始まりました。その後、十七の分野から関心のある項目を選び、高知県内に関連する事例について、ChromeBookを使用してネット検索しました。自分たちの生活と関連のある事例を知ること、SDGsを「自分ごと化」することができ、講演後の感想文にSDGs達成のために自分ができることを記入している生徒が多く見られました。

○ 課題研究学年発表会(二年)

六月三十日(金)、普通科三年課題研究学年発表会を行いました。クラス発表会で選出された各クラスの代表グループが、「研究背景、研究目的・意義、研究方法」、「結果」、「考察」について

発表しました。昨年度に引き続き、発表者と評価者である本校のSSH運営指導委員、教員を研修室に集め、発表会を行いました。その他の生徒たちは、ホール教室で、その様子をライブ中継で見ることとなりました。

出席いただいた皆様から、研究への質問や着眼点の良かったところなどの助言をいただき、自分たちが取り組んだ課題研究に対する理解を深める良い機会となりました。課題研究をとおして得た貴重な経験は、高校卒業後に大学生や社会人となつてから、必ず役立つものと思われま



高知県の医療推進において私たちにできること

○ 地域の課題講演Ⅲ(一年)

九月八日(金)、普通科一年生を対象として、高知工科大学情報学群 教授 吉田真一先生から、「AI人工知能の発展と地域課題への応用」と題して講演いただき

ました。AIに関する講演だけでなく、来年から導入される共通テスト「情報」に向け、プログラミングの体験も行いました。



顔認証システムを体験中

AIがもたらす利便性について学ぶとともに、AIの欠点についても学ぶことができました。そして、何よりもAIを使う人間自身が必要とされた情報を精査する必要があり、得られた情報を鵜呑みにせず、また過信しすぎないことが大切であることを学びました。

◆ 理数科 SSH課題研究

発表会成果報告会

七月二十二日(土)、本校研修室にてSSH課題研究発表会を開催しました。

連携校である京都府立桃山高等学校のグローバルサイエンス部にも来校いただき、対面での発表をしていただきました。今年度も、対面発表とオ

ンラインのハイブリッド形式で発表会を実施しました。

研究発表については、昨年度までの新型コロナウイルスの影響もあり、どのチームも研究が思うように進まない時期がありました。しかし、オンラインを活用して外部の有識者の方々からアドバイスをいただいたり、Google Classroomで担当の先生方と繋がり研究手法の相談をするなど、様々な工夫を凝らして課題研究に取り組んできました。

四月の四国地区SSH生徒研究発表会や六月のPTA総会でのポスター発表を通して研究のブラッシュアップを図り、各チームがこの発表会に向けて入念に準備を進めてきました。

発表会では、研究で得られた結果を分析し、そこから得られた結論をスライドにまとめ、研究成果として発表しました。来賓やSSH運営指導委員の方々からの鋭い質疑に対しても丁寧に応答することができました。この貴重な経験を今後の活動に生かしてもらいたいと思います。



ず S S H 成果報告では、ま
業の活動内容と成果」につ



S S H 成果報告会の様子②

また、今年度は、国が進める G I G A スクール構想のもと配備された一人一台タブレット端末を用いて、課題研究発表会のルーブリック評価をウェブ上で行うなど、ICTの活用についても積極的に取り組まれました。



S S H 成果報告会の様子①

本校からは、「フリーズドライ牛乳の溶解特性に関する研究Ⅱ」(化学分野)の三名が参加し、ポスター発表を行いました。専門家の方々からは、「災害時に有効で有益な研究である。」「レシチンを添加するタイ



S S H 生徒研究発表会の様子

◆ S S H 生徒研究発表会 (兵庫県神戸国際展示場)
八月九日(水)、十日(木)に、S S H 生徒研究発表会が開催されました。同発表会は全国の S S H 指定校や経験校から生徒や教育関係者が集まり開催されるものです。

いて説明がありました。その後、普通科の吉本さん、理数科の松本くん、片岡くん、卒業生の勝賀野くんが、S S H 活動を通して、感じたことや身についたこと、進学後の学びに生かされたことなどを発表してくれました。

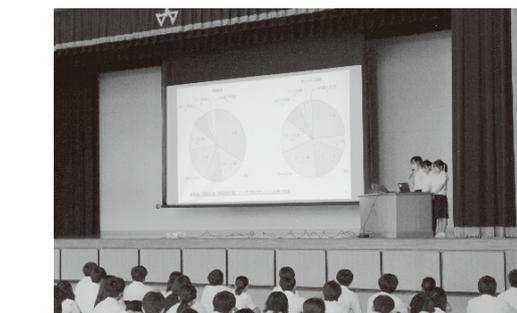
本校からは、ステージ部門に「トラス橋の斜材本数と揺れの伝わり方の関係」(物理分野)が、ポスター部門に、「映像酔いしやすい映像を改善する」(生物分野)が学校代表として参加し、研究の成果を発表しま



研究発表の様子

◆ 第二十四回中国・四国・九州地区理数科高等学校課題研究発表大会(鳥取大会)
八月十七日(木)、十八日(金)に、中国・四国・九州地区理数科高等学校課題研究発表大会が行われました。

◆ S S H 生徒研究発表会 (兵庫県神戸国際展示場)
八月九日(水)、十日(木)に、S S H 生徒研究発表会が開催されました。同発表会は全国の S S H 指定校や経験校から生徒や教育関係者が集まり開催されるものです。



若鳩祭での研究発表の様子

◆ 若鳩祭での課題研究発表
九月二十一日(木)に行われた創立150周年記念若鳩祭では、探究学習の成果発表として、普通科課題研究から「スポーツテストで満点とります」と「高知県の医療推進において私たちにできること」、理数科課題研究から「フリーズドライ牛乳の溶解特性に関する研究Ⅱ」の三テーマが発表を行いました。

審査員からは、生徒たちの今後の研究に生かすことのできる有意義なご助言やご指摘をいただくことができました。また、他校の生徒との交流を通じて、研究を行ううえで大変だったことや、大切にしていることなどを共有することができました。



◆ ミニ課題研究 (理数探究基礎)
一年生理数科では、理数探究基礎の中で、ミニ課題研究Ⅱに取り組んでいます。一学期は、化学分野において、実験計画の立案及び課題研究に必要な実験器具の扱い方を学びました。また、リサーチクエスチョンや仮説を立てて実験活動を行い、その成果を発表することで、課題研究の流れを体験しました。

二学期からは、物理・生物・地学・数学の各分野に分かれてミニ課題研究Ⅱに取り組んでいます。「なぜ」という疑問を大切に、探究活動を進めてもらいたいと思います。

普通科・理数科の優秀発表だけあり、研究の進め方やまとめ方、発表の仕方など、在校生には参考になったのではないのでしょうか。

◆理数科の課題研究

二学期からは二年生の課題研究活動が本格的に始まりました。現在、物理三・化学四・生物三・数学一の全十一グループに分かれて活動を行っています。課題研究の時間以外にも休み時間や放課後を使って担当教員に相談をしたり、先行研究の調査や実験に取り組んだり、各グループが頑張っている姿が見られます。限られた時間の中で主体的に研究に取り組むことで



自作の気圧測定器による気圧測定の様子



DNA抽出実験の様子

●「短期集中体験ゼミ」
◆物理実験体験ゼミ

七月二十六日(水)の午後、本校物理実験室で、物理実験体験ゼミを実施しました。十六名の生徒が参加し、高知大学の加藤治一先生から超伝導の講義を受け、実験を行いました。はじめの超伝導についての講義では、実験のねらいや概要、理論などを確認しました。その後、学年別に分けて、TAの指導の下、体験実習に臨みました。試料を液体窒素で冷却し、超伝導体の性質を観察しました。磁石に対して完全反磁性を示し、超伝導体が浮く様子が見られ、生徒達は興味深く観察していま



中間発表会に向けた資料作成の様子

「仮説・実験・考察・検証」の手順を習得し、将来、日本を支える科学技術系人材に育ってもらいたいと思います。



温度を下げ電気抵抗を測る実験

した。また液体窒素を用いた実験では空気中の酸素が冷やして液体になると水色になることを確認しました。続いて超伝導体の温度を下げて電気抵抗が0になることを確かめる実験を行いました。最後のまとめでは、各班が行った実験の結果についてグラフを用いて発表しました。体験ゼミ終了後、参加生徒が「普段見ることのできない超伝導を知りたけなく実験を通じて学ぶことができて、物性物理に興味が増えた」と感想を話していました。

◆科学巡検体験ゼミ

十月二十八日(土)、二十九日(日)に、土佐清水ジオパークを中心に四国太平洋側(黒潮町、四万十市、土佐清水市)の自然やその地質の形成過程および地域の文化などの関わりを考察する科学巡検体験ゼミを実施しました。



竜串海岸での堆積岩等の観察

初日の黒潮町では、安政の地震発生当時の様子が描かれた入野加茂神社震災碑の見学や黒潮町役場の防災担当の方から黒潮町の防災に対する取り組みの説明を受けることで、災害対策に対する意識を向上させることができました。二日目の土佐清水市では、竜串地区で地震津波の様子が見える堆積岩や生痕化石の観察を行いました。また、海食洞や海食崖、海食台の見学を通して、四国南西地域の地質形成過程についても詳しく学習することができました。白山洞門周辺では、乾燥や潮風に強い海岸性の植物を観察し、四国南西地域の植生についても学習しました。今回の科学巡検体験ゼミを通して、四国南西地域の自然や暮らしについてより理解を深めることができました。



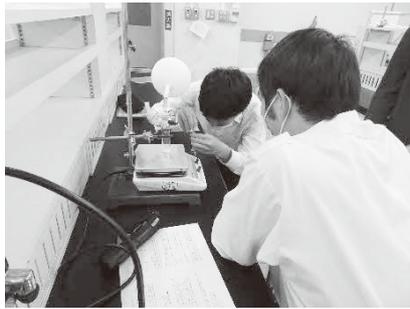
ドラフト内で濃硫酸を滴下する様子

◆化学実験体験ゼミ

十月三十一日(土)に、高知大学理工学部で、化学実験体験ゼミを行いました。午前の部では、化学生命理工学科の今村和也先生の指導のもと、「触媒による色素の合成」実験を行いました。異なる酸触媒を用いることで、目的物であるフルオレセインの合成にどのような影響が出るのかを体験的に学ぶことができました。また、反応が進むのを待つ間は、「光触媒の超親水化」についての講義を受けました。光触媒についての話、身の回りでの活用法、それに至るまでのトライ＆エラーの過程など、少し難しい内容でしたが、非常に興味深い内容でした。特に、「失敗したり、役に立たなかったりするものが研究で、とりあえずやってみただけ、やっぱりダメだった」ということが分かるだけども後々の研究者にとつ

永野先生の研究室で、大学生や大学院生たちが毎日のように行っている専門的な実験で、繊細で丁寧さが求められる操作が多く、難しい実験でしたが、高校では決して体験することができない本格的な有機合成実験で、とても貴重な体験をすることができました。

午前・午後の実験とも長時間の内容でしたが、難しいながらも実験を楽しみ、大学生や大学院生とも交流



シリンジを用いて試薬を測り取る様子

ては意味のあることだ」というお話は、とても印象に残りました。

午後からは、永野高志先生の指導のもと「グリニヤール試薬を用いた炭素炭素結合形成反応」についての実験を行いました。フラスコ内を窒素で置換した特別な条件下で、目的物の合成を行い、TLCを用いて目的物だけを単離した後に、化学反応式と分子量を用いて収率を求めました。



与島PAのアンカレイジ内での研修の様子

を深めることができ、将来の進路について考えることのできる有意義な時間となりました。

◆サイエンスフィールドワーク
 ◆瀬戸大橋にて、巨大建築物の見学実習（理数科二年生）

十月十九日(木)に、香川県にある瀬戸大橋記念館と与島PA内でサイエンスフィールドワークを実施しました。

記念館では、瀬戸大橋建設に至るまでの歴史や瀬戸大橋架橋工事の方法について、実際に使用した機械や実物模型などの展示を見て学びました。与島PAでは瀬戸大橋を実際に見ながら、本州四国連絡高速道路の方から橋の概要やその管理・維持方法などを説明していただきました。その後、通常は入ることのできないアンカレイジ内に入り、瀬戸大橋の建設手順についてパネルを使って説明していただきました。



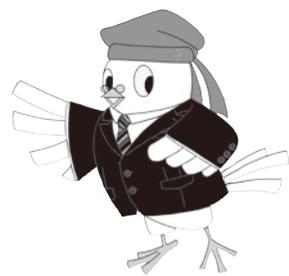
英語でのポスター発表会の様子

規模が大きいくだけに、保守点検作業にも長い時間がかかることでした。今後何十年も維持するためには必要な作業であるとの説明があり、巨大建築物等の維持管理技術の重要性を学ぶことができました。

●「科学英語」
 （理数科三年生）

三年生の科学英語Ⅱでは、課題研究のポスター発表会（英語版）に向けて、英語のポスター作成及び発表原稿の作成に取り組みました。

十月三十一日(火)に、科学英語の総仕上げとして、高知工科大学の長崎政浩先生、高知大学の大西浩平先生をはじめ、高知大学の外国人留学生七名、県内ALT二名の計十一名をお招きして、英語による課題研究ポスター発表会を行いました。



図表の表記の仕方、実験結果の説明など、日本語では当たり前に行うことができることも、英語で発表することは難しく、はじめは戸惑う様子が見られましたが、ジェスチャーを交えながら懸命に説明し、最後まで発表をやり遂げることができました。

●その他
 ◆理数拠点校としての科学推進事業「中学生科学実験講座」

八月七日(月)、中学生を対象とした「中学生科学実験講座」を開催しました。

今年度は、化学講座「香りのある分子の合成」と物理講座「①ヨットが前に進む仕組み、②音や光に関する身近な現象」を行いました。

化学講座では、カルボン酸とアルコールからエステルを合成する実験を行いました。高校で学習する内容で少し難しい実験ではありましたが、自分たちで分子の合成ができることを体験してもらいました。



ヨットが前に進む仕組みについて



香りのある分子の合成実験の様子

中学生の皆さんには、高校での学びを知るきっかけにしてもらえたのではないのでしょうか。

*SSH活動の様子は本校HPに掲載しています。

保育園への「読み聞かせ」に行きました

夏休み真っただ中の七月二十七日(木)、保育士・幼稚園教諭・小学校教諭・介護福祉士等志望の三年生と、図書部員との計十九名で、小高坂保育園に、十五回目となる「読み聞かせ実習」に行きました。それに先立ち、七月二十一日(金)に、「絵本の店 コッコ・サン」の店長・森本様に「読み聞かせ講習会」をしていただきました。

講習会は、「今年、初めから雰囲気が良いですね」と驚かされたくらい、和やかで笑顔の絶えない雰囲気の中で行われました。絵本の中の擬音に合わせて、皆でリズムよく体を動かしたり、幼い頃に読んでもらった絵本を読んでもらって、懐かしさに浸ったり、そのストーリーの奥深さに改めて気づかされたりと、日常生活から少し逸脱した、ゆったりとした時間を過ごすことができました。そして保育園訪問までの六日間で、グループに分かれて読み聞かせの練習を行いました。

迎えた実習の当日、令和元年度以来四年ぶりとなる保育園訪問ということで、不安もありましたが、どのグループも練習の成果を存分に発揮し、四歳児クラス、五歳児クラスとも園児たちは非常に喜んでくれました。読み聞かせ実習と、園児たちとの交流の時間はあっという間に過ぎ、互いに別れを惜しみながら帰途につきました。暑い中、学校・保育園間を徒歩で往復したため、疲れもあつたと思いますが、参加生徒全員が達成感や満足感を抱いて終了することができました。今回の講習会・実習に参加したことで得られたことは、他の事柄にも生かされていくのではないかと思います。



カウンセラー便り



スクールカウンセラー
吉野 飛鳥

小津高校のみなさん、こんにちは。長かった二学期がようやく終わろうとしています。この二学期は高校生活が始まって以来、この三年間で経験できなかった行事が開催され、初めての高校生らしい体験ができたのではないのでしょうか。特に文化祭は準備期間から学校の雰囲気ガラッと変わり、生徒から聴く話や装飾が施される様子に私も一緒にワクワクしていました。勿論、準備や手配など楽しいことばかりではなかったと思いますが、二、三年生から聴かれた「もう一回文化祭を体験できる一年生が羨ましい」という言葉からも皆さんが充実した時間を過ごせた様子が伝わりました。楽しい時間はあっという間ですよね。でも、その時間があつたからこそ、二学期後半の課題やテストにと試練続きの日々を駆け抜けることができました。いいでしょうか。今は二学期を乗り越えた自分を労い、楽しい冬休みをお過ごしください。また三学期にお会いできることを楽しみにしています。

～ 利用方法 ～

- 日時 水曜日(9時45分～17時30分)
- 場所 4階カウンセリング職員室隣の面談室
- 予約 担任の先生やカウンセラー職員室の先生、養護教諭の先生などを通じて予約ができます。また、SCの勤務日に直接面談室に予約をとりに来てもらっても構いません。

未来への扉を開くために

進路指導部

今年も残すところ約二週間となりました。一月十三日(出)、十四日(日)には大学入学共通テスト(以下、共通テスト)が実施され、大学入試も本番を迎えます。本年度、本校からは二六〇名の生徒が共通テストに出願しています。先週末には共通テスト本番と同様の日程で予行演習を行い、いよいよ受験勉強も大詰めとなりました。全国でも約四十六万人の受験生が出願し、目前に迫った試験に向けて追い込みをかけています。体調管理に努めながら、最後の最後まで全力を尽くして頑張ってください。

さて、三年生が受験する二〇二四年入試は、新課程入試(現在の高校一・二年生が学ぶ新課程に基づく入試)を直後に控え、浪人ができない「後がない入試」と言われています。新課程入試では、新科目として情報Ⅰが追加されることや数学Ⅱ・Ⅲが数学Ⅱ・Ⅲ・Ⅳとなるなど、変更があります。また、国語の大問の増加や数学の出題範囲の拡大に伴い、試験時間が延

長され、受験生の負担増が伝えられています。これまでも新課程入試の前年は安全志向が強まる傾向がありました。新たな科目の追加や時間延長の話聞き、警戒感から浪人できない入試と考えている三年生も多いと思います。過度な警戒や不安を抱くことなく、まずは受験勉強に集中しましょう。なぜなら二〇二五年入試の共通テストでは、地歴・公民や数学などは現行課程の科目も出題される手厚い経過措置があるからです。情報Ⅰが新たに追加されるのは大きな変化ですが、本格的な新課程入試は経過措置がなくなる二〇二六年入試からと言えます。新課程入試に対する漠然とした不安感から安全志向になると言われる、今年度入試をチャンスと前向きに捉え、自分の志望校合格に向けて精いっぱい勉強してください。

三年生にとって、この冬期休業中はまとまった時間を確保し、勉強に集中できる最後の機会です。この冬の勉強で、共通テストの得点がさらに伸びると

信じて、時間配分や解答順序、そして難しい問題の見切り方など、十分な対策をしてください。そして、第一志望校以外の併願校についても適切な選択ができるよう、入試方式や受験方法、出願数の検討もしっかりしてください。大学受験には費用面の検討も必要です。受験料に加えて、交通費や宿泊費、さらには合格した併願校への入学権も必要となります。第一志望校合格を最優先に考え、保護者等と相談のうえ、経済的に無理のない受験を実現してください。

一・二年生の皆さんは、各教科からの課題や目の前の勉強にしっかりと取り組むとともに、「何を学ぶために大学に進学するのか」についても考えてください。進路目標を実現するために、現在どのような勉強や活動をしているのかを振り返ってみましょう。三年生になったときに、総合型選抜や学校推薦型選抜だけでなく、一般選抜でも、高校生活で培った力や、大学の専門的な学びに向けてどのような準備をしてきたかを自分の言葉で書くことが求められます。時間的に余裕のある冬休み中に、志望大学で学べる内容や学問分野について確認をしておきましょう。詳しくは大学のホ

ームページや学校案内等で確認してください。

最後になりましたが、入試本番となる冬は例年、感染症が流行する季節でもあります。万全の体調で冬を乗り越えるためにも、心身の状態を安定させることが第一です。生活の安定が体調不良の予防につながり、精神の安定にもつながります。十分な睡眠時間とバランスの良い食事、そして適度な運動も心掛け、冬季休業中の生活を規則正しく過ごすようにしてください。そして、感染症予防のため、マスク着用や手指の消毒、うがいなどの徹底などの基本的な感染対策も忘れずに行ってください。三年生の皆さんのご健闘を心より応援しています。



令和5年度 後期生徒会執行部役員

役 職	氏 名	学年ホーム
生徒会長	水口 沙樹	2年5H
副会長	門脇 永十	2年5H
文化部長	山崎 侑奈	2年1H
文化副部長	池田 吏輝	1年3H
体育部長	竹内 涼菜	2年1H
交流推進部長	植村 英太	1年4H
交通自治部長	田代 晃悠	2年1H
交通自治副部長	秋山 暉一朗	2年1H
保健美化部長	西坂 優希	2年7H
広報伝達部長	今橋 優月	2年2H
会計部長	近藤 祐翔	2年5H
会計副部長	島崎 晃輔	2年5H
書記	白竹 真博	2年3H
会計監査委員長	黒萩 大樹	2年7H

令和5年度 後期生徒会執行部役員決定!

十一月二日(木)、令和五年度後期生徒会執行部役員の内候補者による立会演説会が行われました。今回の選挙においては生徒会長の立候補者が多く、三名による決選投票となりました。その他の役員は全校生徒による信任投票ののち、役員が決定されました。

生徒会長コメント

生徒会長 水口 沙樹

生徒会長を務めさせていただくことになりました、水口沙樹です。

実践躬行。自分自身で実行するという意味です。行動した先には必ず何か結果がまっています。何も行動しなければ何かが生まれることもありません。私は150年の歴史に続く新たなページにたくさんの生徒の行動を刻めるようにしたいと思えます。

アンケートや会議などを行い、生徒一人ひとりの考えを伝えやすい環境づくりや新しいことにも取り組める環境を整えられるよう、鋭意に取り組んで参ります。まだまだ経験不足で未熟な点も多いかと思いますが、生徒、教職員、保護者等の方々のお力添えのもと尽力してまいりますのでよろしくお願いたします。

県内国公立大学 総合型選抜・ 学校推薦型選抜 合格状況

高知大学 17名
高知県立大学 9名
高知工科大学 13名

今後の主な行事予定

1月9日(火) 始業式
一・二年生課題テスト
1月13日(土)・14日(日) 大学入学共通テスト
1月29日(月)～2月2日(金) 一年生修学旅行
2月21日(水)～28日(水) 学年末試験
2月29日(木) 卒業式予行
3月1日(金) 卒業式
3月19日(火) 終業式

編集後記

今号では若鳩祭や150周年記念式典など、150周年記念関連行事を中心に掲載しました。生徒のみならず保護者等の方ももちろんのこと、小津会やPTAなど様々な方のご協力により、盛大な行事を行うことができました。この場をお借りして感謝申し上げます。

さて、例年よりも行事の多い二学期でしたが、保護者等の方々をはじめ関係する皆様のご協力のもと、無事に終えることができました。受験シーズンも到来し、追い込みの時期に入っています。くれぐれも健康にご留意のうえ、有意義な冬休みをお過ごしください。今後とも、皆様のご理解、ご協力をよろしくお願ひ申し上げます。

*若鳩はホームページでもご覧いただけます。

<http://www.kochinet.ed.jp/ozu-h/>

